

令和4年度の取組み状況

(1) 小・中学校・特別支援学校の児童生徒を対象とする取組み

◆ “いじめ・非行をなくそう” 標語の募集及び全県広報

- ・県内の全小中学校及び特別支援学校に対し、いじめの防止・根絶に向けた標語を募集したところ、合計54,436点の応募があり、各地区ごとに審査が行われ、下記の4点が優秀作品に輝きました。

【令和4年度“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動優秀標語】

村山地区：いじめって 「見る」「する」「される」 どれもいや
(尾花沢市立宮沢小学校・4年 三浦 奈結さん作)

最上地区：ありがとう あふれる地域に いじめなし
(戸沢村立戸沢学園・8年 矢口 莉愛さん作)

置賜地区：「助けて」を 話す勇気と 聞く心
(高畠町立高畠中学校・2年 安達 小雪さん作)

庄内地区：消しゴムで 消せない一言 SNS
(鶴岡市立朝陽第三小学校・6年 菅原 伶太さん作)

- ・優秀作品については、青少年の健全育成に携わる関係者が一堂に集う山形県青少年健全育成県民大会（開催日：令和4年10月30日、場所：長井市民文化会館）の場で作者が表彰され、“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動ポスター等各種広報媒体に掲載されました。

(2) 高等学校の生徒を対象とする取組み

◆ 高校生徒会による“いじめ・非行をなくそう”スローガンの作成、いじめ防止ポスターデザインの募集

- ・県内の各高等学校において、生徒会等が主体となって“いじめ・非行をなくそう”スローガンを策定し、学校ごとにスローガンの実現に向けた様々な取組みが行われました。
- ・県内の高等学校に対し、いじめ防止のポスターデザインを募集したところ、計8点の応募があり、審査により優秀作品が選ばれました。

◆ 「児童・生徒と地域の大人の対話会」の実施

- ・県内の各地区単位で、児童・生徒と地域の大人がいじめ防止について話し合う対話会を開催。また、県民運動10年目事業として、各地区対話会代表者による全県版オンライン対話会を開催しました。これまでの活動や各地区の取組み状況を共有し、今後の更なる運動推進を目指します。

(3) 県内の各地域における取組み

- ・県内各地域の推進機関・団体は、それぞれの計画に基づき、街頭及び学校での啓発活動やいじめ・非行防止のための講習会・懇談会等を開催するなど、積極的な活動を展開しました。

◆いじめ・非行防止セミナーの開催（山形県青少年健全育成県民大会の中で開催）

青少年の健全育成に携わる関係者が一同に集う山形県青少年健全育成県民大会の場で、地域・学校・家庭の3者の連携をテーマに、脳科学に基づく有識者黒川伊保子氏による「人生のトリセツ～対話の達人になるための脳科学」と題した講演と、南陽市の事例発表を実施しました。講演では、この世の対話は大きく分けて2種類「問題解決型」と「共感型」があると提唱。それぞれの特性と傾向を踏まえ、ちょっとした気遣いでコミュニケーションを円滑にする“対話の奥義”について独自の論点で展開しました。事例発表では、南陽市青少年育成推進委員会が日ごろの活動について発表し、その内容を共有することで、各地域における活動の在り方について理解と関心が深まりました。

◆地域の大人のためのインターネット利用に関する研修会の開催

令和4年11月11日に県庁講堂で実施し、山形大学地域教育文化学部附属教職研究総合センター客員准教授の伊藤洋子氏を講師に迎え、「ネット世代の子どもたちの現状と心のケアについて～地域の大人はどのように寄り添っていくか～」と題し、ネットやSNSを介した犯罪被害から子どもたちを守る教育について社会全体で取り組むことが重要であり、子どもたちとの信頼関係を育てることが大人の役割であると説きました。

(4) 各種媒体により啓発活動



山形県立長井工業高等学校 1年 小形 葉月さんの作品がポスターデザインに選ばれました。

- ・ 県内民間企業と連携した啓発活動
- ・ モンテディオ山形と連携し、山形県総合運動公園にて10月23日の試合会場等で啓発活動を実施しました。